

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告掲載 URL http://cleanup.jp/
単元株式数	100株

【株式に関するお手続きについて】

- 証券会社等の口座に記録された株式
株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。
 - 特別口座に記録された株式
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
 - 未受領の配当金
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
- 【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 【同連絡先】
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)



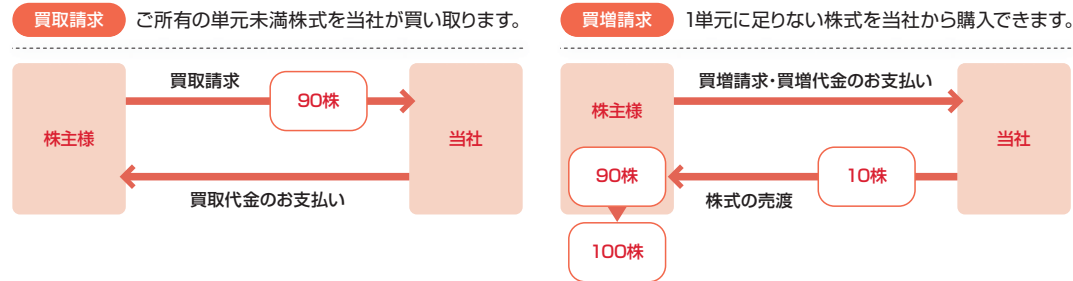
株主の皆さまへ 第62期 報告書

2014年4月1日から 2015年3月31日まで

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式につきましては、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求または買増請求をすることができます。お手続きの方法等につきましては、口座管理機関(証券会社等または三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部)にお問合せください。

(例) 株主様が単元未満株式を90株ご所有の場合



■ 特別口座をご利用の株主様へ

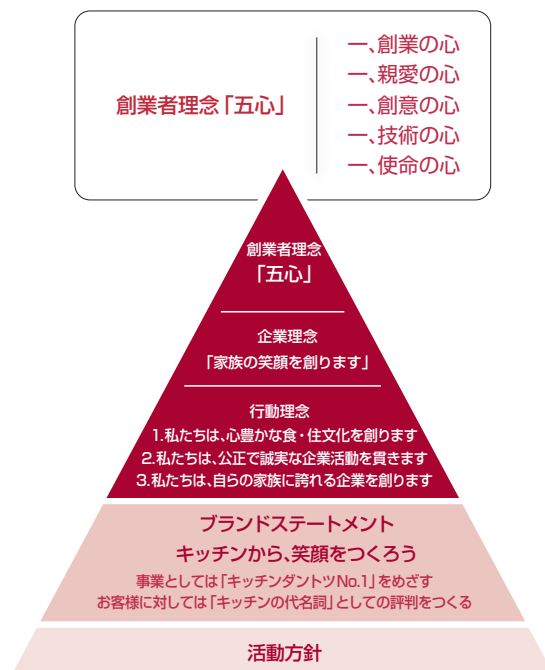
特別口座は証券会社等に開設された口座と異なり、自由な売買ができる口座ではありません。株式の売買等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続きをお勧めいたします。お手続きの方法等につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問合せください。



クリナップの企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出しております。

■ 企業理念



上記三つの理念(創業理念・企業理念・行動理念)に根ざした強い人材・組織・事業を育成することにより、経営を強化/高度化し、“The Kitchen Company”を確立します。

株主の皆さまへ

次の成長を見据え、 新中期経営計画「15中計」を スタート



代表取締役社長

井上 強一

当期は遺憾ながら減収減益となりましたが、『ザ・キッチンカンパニー』の取り組みは継続して追求してまいりました。

中期経営計画「12中計」の最終年度となった当期(2015年3月期)の業績は、5期連続の増収、3期連続の営業増益を目指しておりましたが、2014年4月からの消費税増税後の反動が予想以上に長期化したことから、売上高、営業利益ともに大幅な減収減益を余儀なくされました。株主の皆さまには、ご期待に沿うことができません、お詫び申し上げます。新設住宅着工戸数の推移を見ると、2014年2月に増税前の駆け込み需要のピークが終わり、2014年3月から2015年2月まで12カ月連続で前年同月比マイナスが続く厳しい事業環境でした(3月には、13カ月ぶりのプラスに反転)。

一方、施策展開については、『ザ・キッチンカンパニー』の確固たる確立に向けた取り組みを着実に推し進めることができたと考えております。商品面では、システムキッチンを中心とした商品の高付加価値化に取り組み、当期はシステムキッチン「ラクエラ」においてデザイン性を向上させるリニューアルを行いました。また、主力の「クリンレディ」については、次期フルモデルチェンジを目指した技術開発活動にも注力しました。販売面では、大切な顧客接点である全国101カ所のショールームのリニューアルを推し進めており、当期も9カ所の全面リニューアル(うち、5カ所は新築移転)を実施し、お客様に対する価値提供の強化を図りました。

2015年3月期 連結決算ハイライト

- 売上高は、消費税増税後の反動が想定以上に長期化したことから、前年同期比9.7%減となりました。
- 利益面でも、営業利益が前年同期比65.9%減、経常利益が同68.1%減、当期純利益が同82.2%減となりました。

中期経営計画『12中計』では、「クリナップ」ブランドの総合的な価値向上につなげることができたと評価しております。

3カ年で展開した「12中計」では、『ザ・キッチンカンパニー』の深化と進化を経営の基本方針に掲げ、さまざまな取り組みを実行してまいりました。

商品面では、特に、2011年6月に「クリンレディ」のフルモデルチェンジを行い、これが、その後の増収増益の原動力の一つとなりました。同製品は、キッチンオブザイヤー2011(All About)、「ものづくり日本大賞“内閣総理大臣賞”」、「ステンレス協会賞」をいただくなど高い評価を得たヒット商品となりました。

また、営業政策においては、ショールームを起点とした取り組みの活性化を目指し、さまざまな施策を積極的に展開しました。まず、起点となるショールームの魅力アップに向けたリニューアルの実施が、3カ年で全国拠点の半数近い46カ所に及びました。また、約400名のショールームアドバイザーについても、「食育インストラクター3級」や「整理収納アドバイザー」の資格を全員が取得するなど、人材力強化も進みました。

ショールームで実施するイベントも活発化が進みました。リフォーム需要の取り込みを目指した「水まわり工房」(全国工務店を会員とするクリナップ独自の組織)については、会員数が3年間で514社増の5,346社となる中、「リフォームフェア」は2014年度には延べ1,155回を数える規模まで拡大しております。さらに、「サロナーゼ」(自宅サロンを中心に料理などの専門知識を活かして活躍する女性たち)を講師とするイベントも

株主の皆さまへ



積極的に展開し、2014年度は延べ1,200回の実施を果たしました。

生産体制については、東日本大震災による被災の経験を活かして、BCP(事業継続計画)の観点から東西2生産拠点体制を整備・強化しました。具体的には、システムキッチンの生産がいわき事業所(7工場)に偏重していた体制を改め、西日本に位置する津山工場と岡山工場において自己完結生産が可能な体制を構築するとともに、生産能力の増強を随時推し進めてまいりました。

さらに、海外事業展開についても前進いたしました。中国においては、瀋陽、蘇州、無錫、太倉の4地区にキッチン等の供給を開始することができました。また、台湾・ベトナムにおいては、現地

代理店のショールームを活用しながら、「S. S.」「クリンレディ」など中高級品を中心とした拡販が進んでおります。

こうした継続的な取り組みにより、「クリナップ」ブランドの総合的な価値は着実に高まってきており、非常に実り多い3年間の歩みであったと評価しております。

新中期経営計画「15中計」では、次の成長に向けた「基盤改革」を推し進めてまいります。

当社を取り巻く事業環境は、日本の総世帯人口の減少トレンド(2019年～)の中、新設住宅着工戸数の減少、その一方でのリ

フォーム市場の拡大という流れが予測されております。こうした近い将来の変化に対応していくためには、次の成長を見据えた「基盤改革」を急がなければならないと考えております。

そこで、2015年度(2016年3月期)よりスタートした新中期経営計画「15中計」では、「12中計」の成果を踏まえつつ、これからの3年間で「第二の創業 “第2章”」と位置づけ、「基盤改革」を最重点課題と認識して積極的に取り組んでまいります。

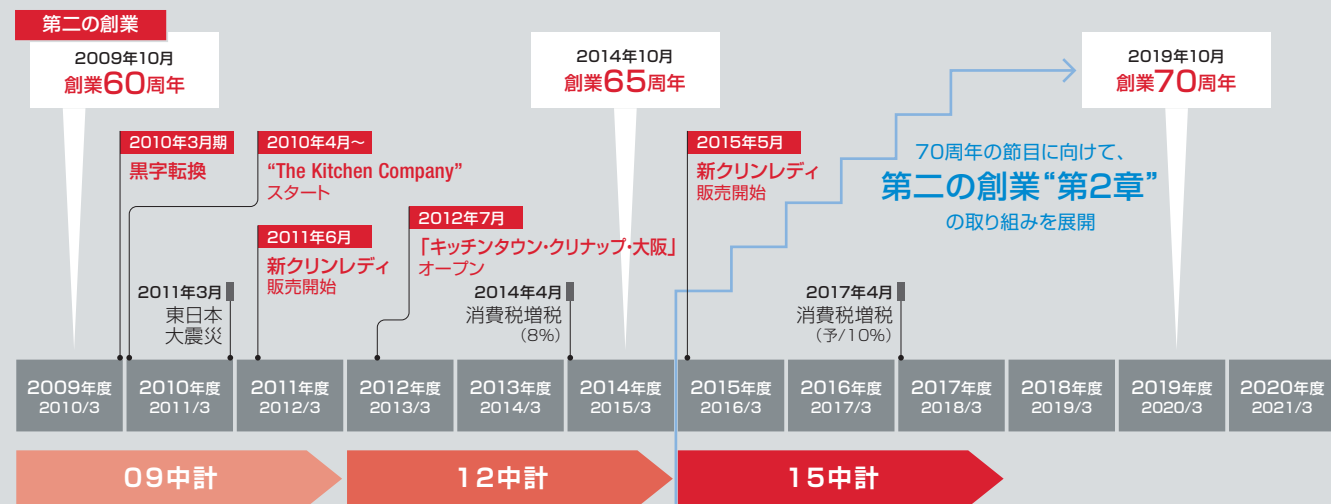
第一に「収益構造改善」に向け、市場ニーズに即した商品のタイムリーな提供、リフォーム市場で競争優位となる政策の実行、収益コスト構造の実現に取り組みます。商品については既に、「クリンレディ」のフルモデルチェンジを行い、5月より発売を開

始しております。第二に「経営基盤の進化」に向け、業務の効率化や人・ブランドづくりなどに取り組んでまいります。次に、今後の中長期的な成長に向けた戦略として、海外事業の拡大、既存事業領域の拡大、新規事業への挑戦を推し進めてまいります。

2019年10月に当社は「創業70周年」を迎えます。この節目に向けて成長基盤の整備を進め、新たな飛躍を目指してまいります。

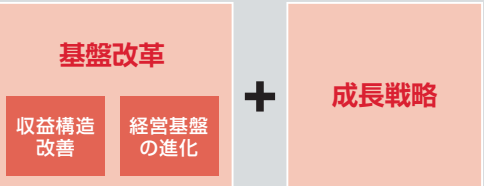
株主の皆さまには、引き続きご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

これまでの歩みとこれから



新中期経営計画「15中計」の概要

- 基本的な考え方
 - 重点施策
- 「ザ・キッチンカンパニー」をさらに極めるために…



- 具体的政策
- 基盤改革 1 収益構造改善**
- 市場ニーズに即した商品のタイムリーな提供
 - ・中高級品のシェア回復(▶「クリンレディ」全面リニューアル)
 - ・伸びる市場の攻略と差別化商品の開発
 - リフォーム市場で競争優位となる政策の実行
 - ・ショールームを核とした販売戦略・販促支援策の推進
 - ・新「20年サポートプログラム」開始
 - 収益コスト構造の実現
 - ・CPSの深化・進化の継続による原価の更なる低減
 - ・サプライチェーンの再構築とコスト低減の両立
- 基盤改革 2 経営基盤の進化**
- 業務・仕組みの効率化による高い生産性の実現
 - キッチン専門メーカーならではの人・ブランドづくり
 - 社会的使命をもった事業活動の推進
 - ガバナンス体制の強化と安定的な株主還元

- 成長戦略**
- 海外事業の拡大**
マーケットを見極めながら、中長期的に海外売上高の拡大を実現するために、海外事業基盤の構築を進める
 - 既存事業領域の拡大**
クリナップ研究所を中心とした技術開発により、「水まわり事業」の新たな価値(商品・サービス)の創造と新市場の創出を図る
 - 新規事業への挑戦**
自社の強みを活かしつつ、成長が見込まれる新規事業の種を見出し、積極的に挑戦する

特集：新クリンレディ

2015.5
新登場

Stainless Cabinet Kitchen クリンレディ

シンクの清掃性を追求した「流レールシンク」など、たくさんの新しい機能を加え、新登場!

現行のシンクでは「水を使うたびにゴミや汚れが広がる」「シンクの隅にゴミが残る」などの課題があり、「ゴミをシャワーで流している」主婦モニターが7割を超えました。その分手間をかけた水を消費していることになります。

今回開発した「新クリンレディ」は、こうした主婦モニターのさまざまなお声を参考に、たくさんの新提案が盛り込まれています。



いろいろな場所に「新クリンレディ」!

ショールームで 全国101カ所のショールームで「新クリンレディ」のフェアを開催

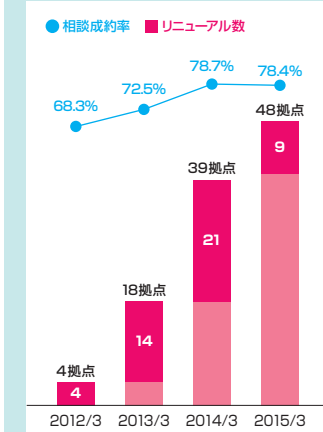
「新クリンレディ」の新機能の良さを体感してもらうために、全国101カ所のショールームにおいて「新クリンレディ」のフェアを開催しています。



ショールームにおける「新クリンレディ」設置風景



積極的なリニューアルを実施中!

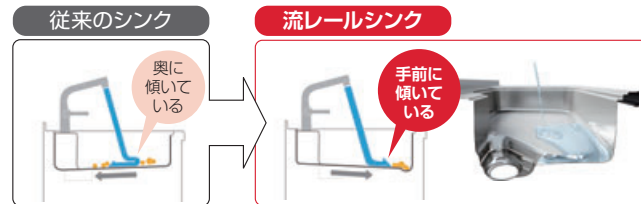


過去4年間で48拠点、当期は9拠点を実施。

「お客様との接点」として重視するショールームについて、2012年3月期以降、全面リニューアルを積極的に実施し、4年間で48拠点のショールームが生まれ変わりました。今後も、全拠点のリニューアルを順次展開してまいります。

[新機能 1] 流レールシンク

シンク内のゴミの広がりを最小限に抑え、キッチン作業で使う水の力を最大限活用し、掃除の手間を軽減する画期的なシンク



[新機能 2] バブルシャワー水栓

3タイプの吐水をシーンによって使いこなせる水栓



[新機能 3] とってもクリンレンジフード

お皿を洗うように簡単にお手入れできる形状の新リーフプレート



[新機能 4] 木目柄のステンレス扉

デザイン性の高い木目柄など13色の新色を加え、全40色に



6月オープン! 「南青山キッチンスタジオ」にも採用

キッチンスタジオで

根津美術館近くの閑静な住宅街に、6月「南青山キッチンスタジオ」がオープン。当社はシステムキッチン「S.S.」と「新クリンレディ」を提供。料理教室やセミナーなどのイベントを開催し、商品PRを行っています。



南青山 Kitchen Studio

Supported by

映画「はなちゃんのみそ汁」に協賛

映画の中で

当社は、映画「はなちゃんのみそ汁」が伝えたい思い「生きること」「命の意味」「食の大切さ」に共感し、協賛する運びとなりました。原作は、福岡市の安武一家に起こった実話に基づいています。

はなちゃんのお母さん「千恵さん」と、当社の福岡ショールームにてホールフードスクールを主宰されている「タカコ ナカムラ」先生との深いご縁もあり、映画に登場するキッチンには「新クリンレディ」が採用されています。この映画を通して、キッチンで過ごす時間の大切さを見つめ直す機会となるよう、応援してまいります。



12月に行われた制作発表で挨拶する安武はなちゃん

【2015年冬 公開予定】

映画 「はなちゃんのみそ汁」
出演: 広末 涼子 滝藤 賢一 赤松えみな ほか
監督/脚本: 阿久根 知昭

連結ハイライト情報 / 連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

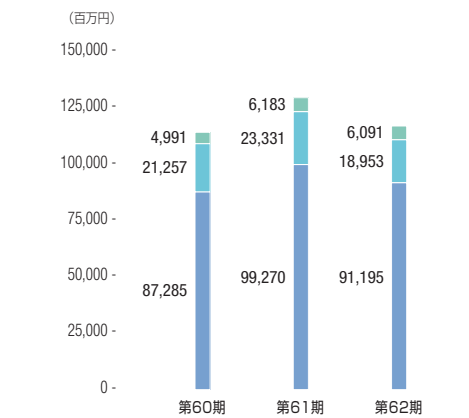
(百万円)

	第60期 2013年3月期	第61期 2014年3月期	第62期 2015年3月期
売上高	113,533	128,785	116,239
営業利益	4,755	8,873	3,028
経常利益	4,372	8,470	2,703
当期純利益	2,506	4,970	883
総資産	85,891	95,932	86,063
純資産	56,033	60,626	56,509

■ 部門別売上高 (連結)

(百万円)

	第60期 2013年3月期	第61期 2014年3月期	第62期 2015年3月期
厨房部門	87,285	99,270	91,195
浴槽・洗面部門	21,257	23,331	18,953
その他	4,991	6,183	6,091
合計	113,533	128,785	116,239



厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S. S.」、中・高級品クラスの「クリンレディ」、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第62期の営業概況

市場環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府や日銀による経済政策及び金融政策が景気の下支えとなり緩やかな回復基調となりましたが、個人消費は消費税増税後の反動により足踏み状態が続き、先行き不透明な状況で推移いたしました。

住宅設備機器業界におきましては、2014年3月よ

り連続して前年同月を下回っていた新設住宅着工戸数に落ち着きの兆しがみられるものの、依然として低位で推移しております。また、リフォーム市場も、消費税増税後の反動が想定以上に長期化し、厳しい状況が続いております。

業績・成果

このような中、当社グループは、2014年9月にデザイン性を向上させてリニューアルしたシステムキッチン「ラクエラ」や、『ステンレス エコキャビネット』を標準装備したシステムキッチン「クリンレディ」、『美コートワークトップ』を標準装備したシステムキッチン「S. S.」などを中心として、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、5カ所を新築移転、4カ所を全面リニューアルいたしました。また、当社の会

員登録制組織「水まわり工房」加盟店との連携も深めながら、需要の獲得に努めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動(*)を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前年同期比9.7%減の1,162億39百万円となりました。利益面では営業利益は同65.9%減の30億28百万円、経常利益は同68.1%減の27億3百万円、当期純利益は、厚生年金基金解散損失引当金繰入額の計上等により、同82.2%減の8億83百万円となりました。

*VE活動：VE (Value Engineering) は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第62期の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S. S.」は数量、金額とも減、「クリンレディ」は数量、金額とも減、「ラクエラ」は数量微増、金額は減となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比8.1%減の911億95百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも減、「ユアシス」は数量、金額とも減、洗面化粧台においても数量、金額とも減となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比18.8%減の189億53百万円となりました。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比117億61百万円減少し559億64百万円となりました。これは現金及び預金が77億43百万円、受取手形及び売掛金が86億20百万円減少した一方、有価証券が7億円、電子記録債権が27億54百万円、商品及び製品が16億77百万円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比18億92百万円増加し300億99百万円となりました。これは有形固定資産が8億20百万円、無形固定資産が4億20百万円、投資その他の資産が6億51百万円増加したことによります。

資産合計 総資産は前期末比98億68百万円減少し860億63百万円となりました。

	第61期 2014年3月31日現在	第62期 2015年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	67,725	55,964
現金及び預金	29,307	21,564
受取手形及び売掛金	27,290	18,670
電子記録債権	4,400	7,155
その他	6,778	8,615
貸倒引当金	△ 51	△ 41
固定資産	28,206	30,099
有形固定資産	20,606	21,427
建物及び構築物	8,976	9,346
土地	6,608	6,607
その他	5,021	5,473
無形固定資産	2,148	2,568
投資その他の資産	5,452	6,103
投資有価証券	3,135	3,501
その他	2,378	2,673
貸倒引当金	△ 61	△ 71
資産合計	95,932	86,063

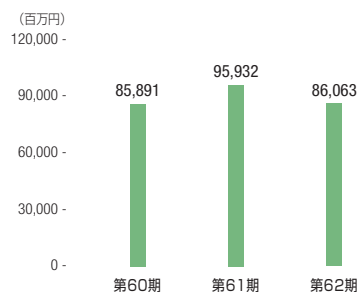
	第61期 2014年3月31日現在	第62期 2015年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	29,822	23,087
買掛金	8,462	7,036
その他	21,360	16,051
固定負債	5,483	6,467
長期借入金	1,569	1,273
退職給付に係る負債	1,089	1,284
役員退職慰労引当金	424	416
その他	2,400	3,492
負債合計	35,306	29,554
(純資産の部)		
株主資本	59,616	54,695
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	34,222	29,387
自己株式	△ 224	△ 310
その他の包括利益累計額	1,010	1,814
その他有価証券評価差額金	620	1,029
為替換算調整勘定	55	130
退職給付に係る調整累計額	334	653
純資産合計	60,626	56,509
負債純資産合計	95,932	86,063

流動負債 流動負債は前期末比67億34百万円減少し230億87百万円となりました。これは買掛金が14億25百万円、短期借入金が15億円、未払金が22億8百万円、未払法人税等が31億10百万円減少した一方、1年内返済予定の長期借入金が4億60百万円増加したこと等によります。

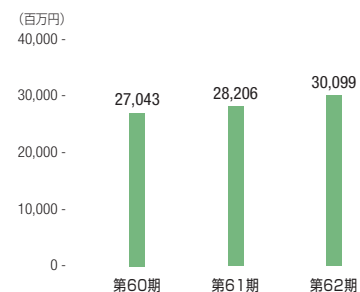
固定負債 固定負債は前期末比9億83百万円増加し64億67百万円となりました。これは厚生年金基金解散損失引当金が9億15百万円、退職給付に係る負債が1億94百万円増加した一方、長期借入金が2億95百万円減少したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比41億17百万円減少し565億9百万円となりました。これは当期純利益8億83百万円、その他有価証券評価差額金の増加4億8百万円、退職給付に係る調整累計額3億19百万円の増加、配当金の支払い11億17百万円、自己株式の取得43億55百万円、退職給付に係る会計基準の改正に対応して割引率を見直したことによる期首利益剰余金の減額6億2百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末比の63.2%から65.7%になりました。

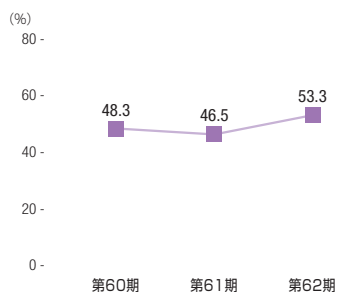
■ 資産合計



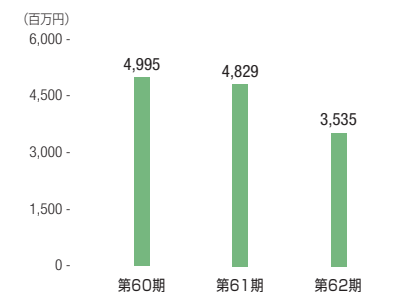
■ 固定資産



■ 固定比率

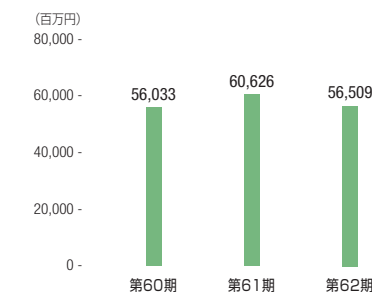


■ 有利子負債

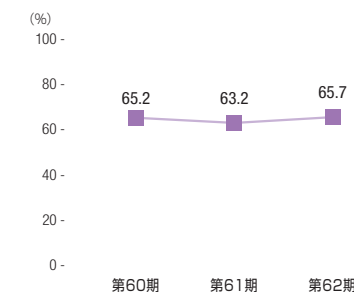


(※) 有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金、リース債務の合計。

■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結損益計算書および連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

売上高 厨房部門、浴槽・洗面部門ともに減収となり、売上高は前年同期比9.7%減の1,162億39百万円となりました。

売上原価 S.S.、クリンレディの原価率がアップしたこと等により、売上原価率が前年同期比1.7ポイントアップし66.7%となりました。

販管費 販管費は前年同期比5億円の減少となりましたが、販管費率は減収となったため、同2.6ポイントアップの30.7%となりました。

営業利益 減収となったこと、また、売上原価率・販管費率がともにアップしたことにより、営業利益は前年同期比65.9%減の30億28百万円となりました。

当期純利益 当期純利益は厚生年金基金解散損失引当金繰入額の計上等により、前年同期比82.2%減の8億83百万円となりました。

	第61期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	第62期 2014年4月1日～ 2015年3月31日
(連結損益計算書)		
売上高	128,785	116,239
売上原価	83,730	77,531
売上総利益	45,054	38,708
販売費及び一般管理費	36,180	35,680
営業利益	8,873	3,028
営業外収益	544	584
営業外費用	948	909
経常利益	8,470	2,703
特別利益	88	11
特別損失	197	1,006
税金等調整前当期純利益	8,361	1,709
法人税等	3,391	825
少数株主損益調整前当期純利益	4,970	883
当期純利益	4,970	883
(連結包括利益計算書)		
少数株主損益調整前当期純利益	4,970	883
その他の包括利益	219	803
包括利益	5,190	1,687

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

	第61期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	第62期 2014年4月1日～ 2015年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,608	3,259
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,393	△ 4,360
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,137	△ 6,659
現金及び現金同等物に係る換算差額	39	17
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,117	△ 7,743
現金及び現金同等物の期首残高	27,204	31,321
現金及び現金同等物の期末残高	31,321	23,578

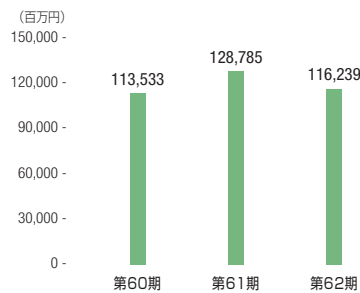
営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によって得られた資金は32億59百万円(前年同期比62.1%減)となりました。これは税金等調整前当期純利益が17億9百万円、減価償却費が30億13百万円、厚生年金基金解散損失引当金の計上が9億15百万円、売上債権の減少71億11百万円等があった一方、賞与引当金の減少2億74百万円、たな卸資産の増加18億39百万円、仕入債務の減少14億25百万円、未払金の減少21億20百万円、法人税等の支払額37億52百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は43億60百万円(前年同期比28.5%増)となりました。これは生産設備の増設及び改修、ショールーム移転・改装等の有形固定資産の取得による支出が28億88百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が9億86百万円、有価証券の取得による支出が5億円あったこと等によるものです。

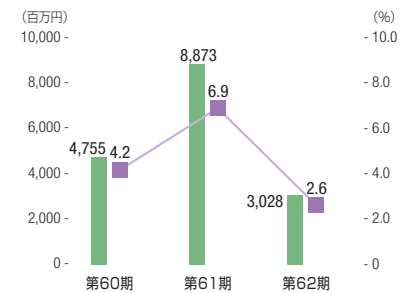
財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は66億59百万円(前年同期比485.6%増)となりました。これは短期借入金の純減15億円、配当金の支払いが11億17百万円、自己株式の取得による支出が41億15百万円あった一方、長期借入金の純増が1億65百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の期末残高
これらにより、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ77億43百万円減少して235億78百万円となりました。

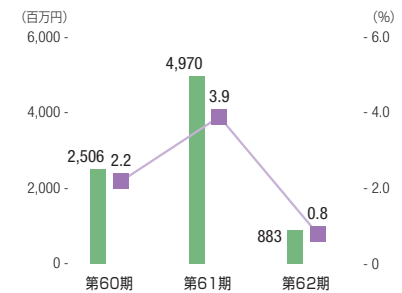
■ 売上高



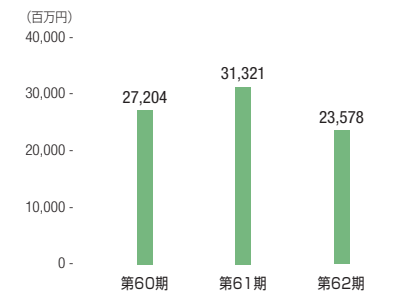
■ 営業利益・営業利益率



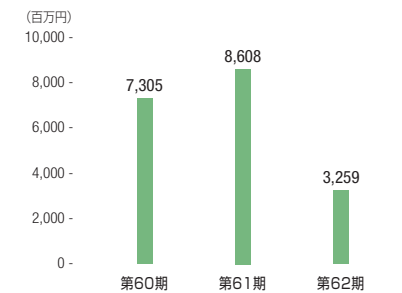
■ 当期純利益・当期純利益率



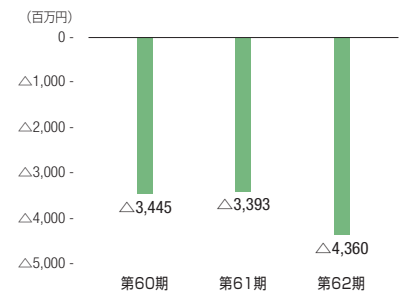
■ 現金及び現金同等物の期末残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株式関連情報 (2015年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

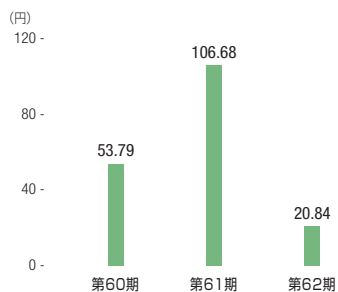
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益を上げ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力

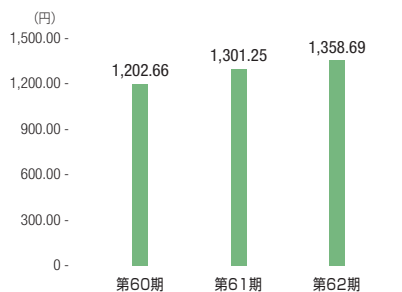
の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

期末配当金につきましては、1株当たり10円とし、1株当たり年間20円の普通配当を実施させていただきました。なお、前期の配当は創業65周年の記念配当5円を含め、1株当たり年間25円(普通配当20円、記念配当5円)でした。

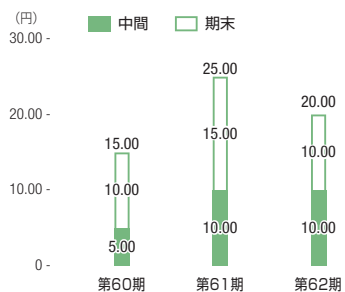
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産額

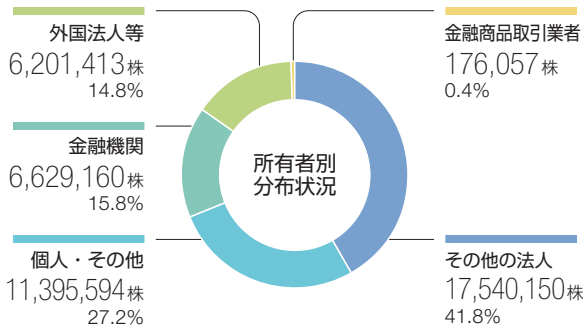


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 41,942,374 株
 株主数 4,061 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	12,476	29.7
クリナップ社員持株会	1,969	4.7
株式会社タカヤス	1,829	4.3
クリナップ真栄会	1,824	4.3
クリナップ共進会	1,601	3.8
井上 けよ	1,133	2.7
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	999	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	936	2.2
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCROO	782	1.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	757	1.8

(注) 持株比率は、「株式付与ESOP信託口」が保有する自己株式(301,100株)を除いた自己株式(50,197株)を控除して計算しております。

会社情報

■ 会社概要 (2015年3月31日現在)

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証2部上場
 1991年9月2日 東証1部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,484名 / 単体：2,728名
 主な事業所 支社：国内3カ所
 支店：国内4カ所
 営業所：国内125カ所
 海外：香港、北京、台湾、ハノイ
 工場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島
 (いずれも福島県いわき市)

■ 役員 (2015年6月25日現在)

代表取締役社長 井上 強一 常勤監査役 山根 康正
 取締役 加藤 亨一 常勤監査役 山本 幸男
 取締役 小島 輝夫 監査役 新谷 謙一
 取締役 小松 裕恒 監査役 有賀 文宣
 取締役 佐藤 茂
 取締役 藤本 眞一
 取締役 島崎 憲夫

注) 監査役 新谷謙一および有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。

■ ショールーム/全国101カ所

北海道支店ブロック 4カ所 中部支店ブロック 12カ所
 東北支店ブロック 13カ所 関西支店ブロック 26カ所
 東京支店ブロック 28カ所 九州支店ブロック 11カ所
 上信越支店ブロック 7カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

*株主・投資家の皆さまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
 また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。

